

テーマ：『 早渕川流域の身近な自然体験活動を通じた環境学習 その2』

横浜市立 中川小学校

Tel. 045-591-3540 担当者 津江裕子

3年 横浜青年会議所、地域 NPO の協力で観察会
アユやナマズ、トンボやバッタも姿を見せました。



観察会で見つかったアユ



PTA 親子でネイチャーウォーク (7月)
200名の親子で親水広場は大にぎわい



中川水族館



児童の飼育委員会が水辺の生き物を展示

■ 実践内容:

- 1 各学年が早渕川など身近な自然を活用し社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間などで授業を展開した。
- 2 児童の飼育委員会が早渕川や徳生公園池などに生息する生物を「中川小水族館」に展示した。
- 3 ゆめのいずみ(流水池)をエコアップし、アサザやセリを植えた。
- 4 エコアップしたプールでギンヤンマのヤゴを採集し、各自が飼育して羽化させた。来年の3年生が同様に学習できるよう、現3年生が9月にプールへ植物を浮かべた。
- 5 PTAが主催して「第3回親子でネイチャーウォーク」を実施した。

■ 実践成果:

- 1 教職員が身近な自然に関心を持ち、積極的に授業地域の自然を生かし、体験を伴う授業を展開するようになった。また、授業を進めるに当たって、地域のNPOなどの団体に協力を得て、より豊かな学習を提供できた。
- 2 飼育委員会児童が水族館を整備し、子どもたちが楽しそうに観察したり、学習に役立てたりしている。
- 3 夢のいずみにはアサザの花が咲き、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボが産卵に訪れ、ヤゴも生育している。
- 4 夏は子どもたちのプール、秋から春はヤゴたちの池、プールは環境学習にも大きな役割を果たすようになった。
- 5 「第3回親子でネイチャーウォーク」には200名ほどの参加があり、身近な自然のおもしろさに喜びの声が多く寄せられた。また、PTAの年間活動に組み入れられ、今後も継続できるようになった。

■ 実践ポイント:

- ・ 身近な自然の教材化を進め、各学年がカリキュラムに位置づけたことで、体験的な環境学習を全校の児童が経験できるようになった。また、親子で環境を学ぶ場をPTA活動の中に位置づけることができた。今後、親子で身近な自然の価値に気づくことにより、さらに地域の環境を改善する大きな力となることが期待できる。